



慈済大学付属高級中学の生徒（右端）から、手話付きの校歌を教わる青森南高の生徒たち

文化の違い 互いに理解

青森

台湾東部の花蓮市にある「慈済大学付属高級中学」の生徒ら34人が5月27日、青森市の青森南高校を訪れ、外国語科とグローバル探究科の1、3年生計114人と交流し、互いの文化に理解を深めた。両校は昨年、姉妹校の協定を締結。今年2月にオンライン上での交流は行ったが、協定締結後に対面で交流するのは初めて。今回の訪問は、日本の高校に当たる台湾の高級中学の生徒が、青森中央学院大学（青森市）や県内農家民泊団体で組織する「アジアからの観光客誘致推進協議会」

青南高生 台湾の生徒と交流

の招きを受けて実現した。

この日は、両校の生徒3、5人ずつのグループに分かれ、英語で自己紹介を実施。生徒たちは身ぶり手ぶりを交えながら、好きなアニメやスポーツの話で盛り上がった。お土産を交換したりした。中には、校歌や特技の空手の形を教え合うグループもあった。

奥崎小桜さん（青森南高3年）は「台湾の文化についてたくさん教えてくれて、台湾に興味が増えた」、岩谷心月さん（同）は「英語がでなくても、ジェスチャーなどを使って会話ができて楽しかった」と話した。（工藤慎子）

東奥日報 2024年（令和6年）6月1日（土）掲載

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。